

# ネギハモグリバエの有効薬剤の探索

農業総合研究所

## 要旨

ネギハモグリバエは平成11年頃から府内のネギ栽培地域において多発し、甚大な被害を与えている。しかし現在、ネギハモグリバエに適用のある登録農薬は少ない。そこで、20種類の殺虫剤に対する2齢幼虫及び成虫の感受性と定植時に施用する4種類の粒剤の効果について検討した結果、幼虫に対しては6種類、成虫に対しては2種類の殺虫剤が有効であり、定植時には2種類が有効であることを明らかにした。

## 成果の概要

ネギハモグリバエの2齢幼虫が高い感受性を示した殺虫剤は、ベンフラカルブMC剤、カルタップ水溶剤、チオシクラム水和剤、シロマジン液剤、ニテンピラム水溶剤及びクロチアニジン水溶剤である(図1)。

ネギハモグリバエ成虫の死虫率が高い殺虫剤は、エトフェンプロックス乳剤及びスピノサド顆粒水和剤である。

ネギハモグリバエに対して定植時処理での効果の高い粒剤は、チアメトキサム粒剤及びニテンピラム粒剤である(図2)。

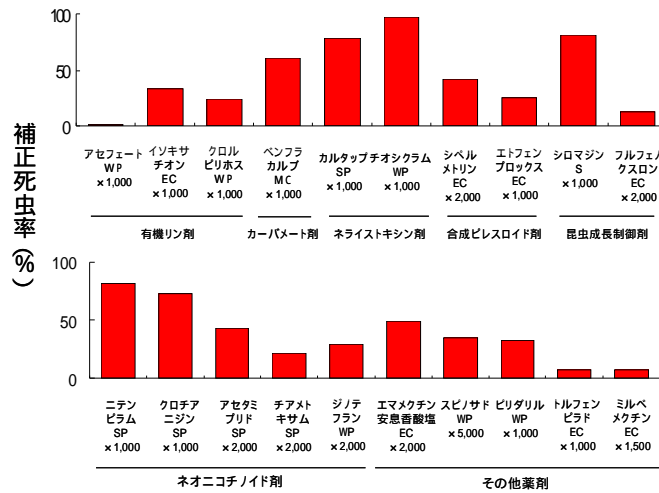


図1 ネギハモグリバエ2齢幼虫の殺虫剤感受性  
(注)WP:水和剤、MC:マイクロカプセル剤、EC:乳剤、SP:水溶剤、S:液剤

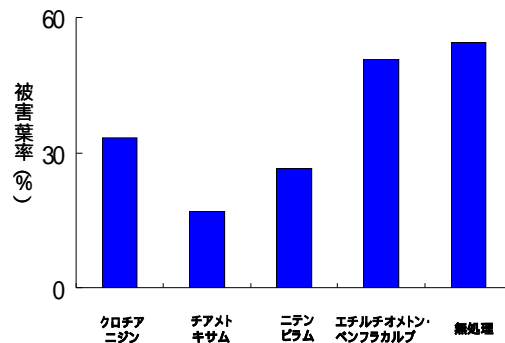


図2 ネギハモグリバエに対する各種粒剤の防除効果(処理3週間後)

使用農薬は、最新の登録情報を参照し、使用基準に留意し薬剤を選択すること。  
(問合せ先: Tel. 0771-22-6494)